

行政視察報告書

令和6年9月30日

呉市議会議長 様

呉市議会議員

光宗 等

亀井 聡美

久保 東

佐伯 航一郎

沖田 範彦

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

令和6年8月8日（木）～8月9日（金）

2. 調査項目

Kitahama Lab 若者に読んでもらえる広報紙づくりについて

愛媛県西条市 「広報さいじょう」の取組について
「さいじょう市議会だより」の取組について

3. 参加議員

光宗等、亀井聡美、久保東、佐伯航一郎、沖田範彦

4. 随行者

議会事務局副主任 栗田 祐基

【Kitahama Lab】

■調査項目

若者に読んでもらえる広報紙づくりについて

・調査対応者

Kitahama Lab 代表 秋山 奈々

Kitahama Lab 副代表 猪熊 季夏

Kitahama Lab 高橋 初咲

Kitahama Lab 高橋 柊凱

Kitahama Lab 田所 栄人

Kitahama Lab 藤澤 萌芽

香川大学経済学部 教授 古川 尚幸

・調査期日

令和6年8月8日（木） 午後2時～午後4時

・Kitahama Labの概要

高松港を經由する貨物の一時保管場所として建設された倉庫群エリアをリノベーションし、平成13年に複合商業施設「北浜alley(アリー)」が誕生した。その北浜と「人々」との繋がりを作り、地域全体の振興を目指すため、香川大学の学生がプロジェクト「Kitahama Lab」を立ち上げ、様々な活動に取り組んでいる。

・調査目的

呉市議会の議会だより「チーム議会くれ」は、これまで中核市議会議長会議会報コンクールにおいて、令和元年及び令和5年に最優秀賞、令和6年に優秀賞を受賞してきた。

引き続き、よりよい広報紙づくりに取り組むに当たり、議会だより以外の広報紙についても調査研究し、新しい観点から取り組んでいく必要があることから、フリーペーパーを作成している香川大学の学生によるプロジェクト「Kitahama Lab」を調査することとした。

・調査内容

Kitahama Labでは、具体的な取組内容として、フリーペーパー「link. (リンク)」の制作・広報による魅力発信をはじめとし、写真展やワークショップなどの様々なイベントを企画し、地域に根差した活動を行っている。

フリーペーパーづくりでは、レトロとモダンの融合をコンセプトに、若者でも手に取りたくなるレイアウトや字体を心がけ、学生らしい写真を多く採用している。

■質疑応答

「Kitahama Lab」と地域との協力関係や、フリーペーパーの作成過程、今後の展望についての質疑応答が行われた。

また、大学生から見た呉市議会だよりの感想や改善点、学生としての議員や政治に関す

る所感を伺うことができ、若者に対する理解も深められた。

■呉市での展開の可能性

若者をターゲットとした広報紙とするならば、若者視点のセンスを取り入れて、全体のレイアウトや字体、縦書き・横書きのバランスや効果的な組み合わせ方、写真素材の撮影方法や加工などについて、引き続き研究していく必要があるように思う。

また、今回の意見交換の中で、若者が議会に興味を持ってないのは、若者と議員との接点が少ないせいではないかという意見があった。議員という存在に親しみをもち、もっと身近に感じてもらうために、ワークショップなどを通じて若者との交流を行い、紙面企画や構成に若者の意見を反映していくことも有益ではないかと考える。

【愛媛県西条市】

■調査項目

「広報さいじょう」の取組について

「さいじょう市議会だより」の取組について

・調査対応者

議会事務局議事課副課長兼調査広報係長 野村 純江

経営戦略部シティプロモーション推進課長 西村 友規

経営戦略部シティプロモーション推進課副課長兼広報係長 秋山 政徳

経営戦略部シティプロモーション推進課広報係主任 八塚 智史

・調査期日

令和6年8月9日（金） 午前9時30分～午前11時30分

・愛媛県西条市の概要

人口：103,764人

世帯数：50,921世帯

・調査目的

呉市議会の議会だより「チーム議会くれ」は、これまで中核市議会議長会議会報コンクールにおいて、令和元年及び令和5年に最優秀賞、令和6年に優秀賞を受賞してきた。

引き続き、よりよい広報紙づくりに取り組むに当たり、西条市が発行する広報紙の優秀事例を調査することとした。

・調査内容

「さいじょう市議会だより」では、西条市議会マスコットキャラクター「みずき」の活用や表紙写真の公募などの取組を行っている。

市の広報紙である「広報さいじょう」は、明確な目的・コンセプト、対象とする読者像（ターゲット）を定めた上で、平成30年5月号からリニューアルを実施した。

具体的には、ページ数の削減、デザインの刷新、特集の毎号掲載に取り組み、リニューアル後は、連続して全国広報コンクールにおいて上位の成績を収め、令和4年度のコンクールでは、広報紙（市部）部門において全国一位に輝いている。

広報紙作成に当たっては、『市民に「伝わる」広報紙』を目標とし、読者アンケートの結果などを反映させながら、常に紙面内容を進化させるとともに、作成にかかる職員の労力を削減するために、原稿提出に当たっての注意点の作成や印刷会社とのやりとりのマニュアル化などの業務効率化にも取り組んでいるとのことである。

また、読んだ人の行動変容をゴールに定める「戦略的な構成」や人の想いや表情を言葉で伝えるための「密着戦略」などの特集や紙面の作成方法、完成した冊子を取材対象に直接手渡しするといった取材前から取材後に至るまでの取組姿勢など、「人」の想いを形にすることを心がけている。

現在の「広報さいじょう」の主担当者は、7年にわたり広報紙作成に携わっておられ、一貫した広報紙作成について詳細な資料と熱意ある説明を頂いた。

■質疑応答

「さいじょう市議会だより」については、議会事務局の広報紙作成の業務量や冊子の配布方法、表紙写真の選定方法などの質疑が行われた。

「広報さいじょう」については、シティプロモーションとの関係性、明確なコンセプトやターゲット、編集方針の詳細、SNSとの併用の状況、アンケート調査についてなどの質疑応答が行われた。

■呉市での展開の可能性

広報紙づくりに当たっては、職員や議員が互いにその向上に熱意を持って取り組むことができるように、業務の効率化などの検証を行う必要がある。

また、紙面にかかる市民アンケートを実施し、その結果を参考とするなど、呉市議会だより「チーム議会くれ」の明確なコンセプトやターゲットを再度整理し、SNS運用も含めた世代別のアプローチの方法を研究していくべきである。

若い世代の写真の掲載を増やすことで、掲載対象の親や親戚など、広報紙を手にとってもらう可能性が高まるため、子供の写真を多く掲載し、完成した冊子を直接手渡しするなどの方策も、市民との接点を増やすきっかけとなるため、実施を検討していきたい。

今回入手した資料は、取材前から取材後に至るまでの広報紙作成のノウハウが凝縮された参考物であるため、呉市議会だよりの制作過程と比較検証するなどし、今後も活用していくことが望ましい。